

## 図説 日本の湧水 — 80 地域を探るサイエンス —

日本地下水学会 編

朝倉書店 2023 年 11 月 1 日（初版第 1 刷）発行

B5 判 176 頁 ISBN978-4-254-16280-6 定価 4,730 円（税込）



朝倉書店 ([https://www.asakura.co.jp/detail.php?book\\_code=16280](https://www.asakura.co.jp/detail.php?book_code=16280))

日本では、地下水は生活用水をはじめ農業などの様々な用途で利用され、地表水とともに重要な水資源になっている。特に、地下水が地表に自然に湧き出す「湧水」は、その水温や水質、湧出量などの特性が活かされ、各地において人々のくらしや伝統・歴史などに深くかかわってきた経緯がある。また親水空間をつくりだし、身近に“みる”ことのできる地下水でもある。

さて、本書は、湧水に関して高い専門性を有しない方（筆者を含む）にも理解しやすい工夫がされていることが最初の印象である。36 名の執筆者によって各地の湧水のそれぞれが様々な視点で紹介されているため、非常に興味深く読むことができた。

冒頭の「総説」においては、湧水に関する基本的な知識が主に整理され、湧水の生じるメカニズムと地形・地質との関連、全国の湧出量の概況、水質を表す指標の意味、更に水質形成に及ぼす地下水の起源や滞留性、流動過程について説明されている。

次に、日本 47 都道府県のそれぞれで 1 箇所以上になるように計 80 箇所を選定して、湧水の状況等を紹介している（選定箇所の内訳は、北海道地方 4 箇所、東北地方 13 箇所、関東地方 12 箇所、中部地方 19 箇所、関西

地方 7 箇所、中国地方 6 箇所、四国地方 7 箇所、九州地方 12 箇所（日本各地に多くの湧水がある中、選定にあたって苦勞された様子も伺える）。各々の湧水の紹介内容は、水温、水質、湧出量の各データ、地域の概要、湧水の分布などの状況、水質の特徴などとなっている。地域によっては、湧水の保全の取り組み事例やくらしなどの関りについても述べられている。特に、湧水の様子の写真なども多く取り入れられていてイメージしやすい内容になっている。なお、水質等の各種データ（Excel ファイル）については、出版社のウェブサイトからダウンロードできる。日本における湧水は、軟水（硬度が  $60 \text{ mg L}^{-1}$  未満）のものが多くを占めるが、硬度が数百  $\text{mg L}^{-1}$  を超える硬水も日本に幾つか存在することなども読み取れる。

本書によって湧水に恵まれた日本の状況を知り関心が高まり、そして地下水・湧水を守ることへの意識の高揚に繋がることが期待される。持っておきたい貴重な書籍（資料）の一つである。沿岸都市部などでは自噴（井戸から自然に地下水が湧き出る現象）が復活してきていて、この内容を含めた続編の発行が待たれる。

神谷浩二（岐阜大学工学部）